

# 沖縄だより

<http://okinawa-branch.com/>

No. 87

2019年5月27日

【発行】平和フォーラム沖縄事務所

tel/fax:0980-43-0740

mail:peaceforum.okinawa@gmail.com

## 基地のない平和な沖縄を！

第47回5・15平和行進は全国から若者を中心に、3日間累計で3590人が参加しました。機動隊による厳しい弾圧が続くキャンプ・シュワブゲート前から出発した中北部コースは、キャンプ・ハンセン、嘉手納基地などを回り全長約38km、県民広場（那覇市）を出発し、ひめゆりの塔など南部戦跡を回った南部コースは約44.8km。沖縄らしい猛暑の中での行進でした。辺野古新基地建設反対の闘いが大きく全国的に拡大し今後の闘いへ希望をもたらす若い力でした。

沖縄では5・15復帰当時と現在の沖縄がどう変わったのかの視点で討論会、論壇、社説などで鋭く政府、米国に切り込んでいます。一部を紹介します。琉球新報は5月15日、「復帰と同時に県民はこの憲法の三大原理である基本的人権の尊重、国民主権、平和主義は沖縄では画餅のごとく現実の実感が伴わないまま今に至っている」と主張しています。沖縄事務所が開設して2年と3ヵ月、生活してみて全くその通りだと肌で感じています。私なりに今の沖縄の現実を報告したいと思います。

### 1. 1972年復帰時から何ら変わらない沖縄の現実

1949年9月22日、20年から50年それ以上の占領をよしとした「天皇メッセージ」により、「沖縄差別」が今日まで続いています。

1996年日米地位協定の抜本的改定を求めた県民投票、1997年12月名護市民投票そして今年2月の辺野古新基地建設反対など沖縄県民はその都度「民意」で答えを出してきましたが、政権側は「国には国の民主主義がある」と沖縄の民意をことごとく否定してきました。もしこの民意に従ってしまえば「天皇メッセージ」が否定されて米軍が沖縄から撤退を余儀なくなるからだろうと思う。それほどこのメッセージの重みがあります。米軍の植民地支配で74年続く今日にいたっても何ら変わるどころか、辺野古新基地が、もしも完成したならば100年、200年も継続使用するという事は、この「天皇メッセージ」で沖縄県民を差別し、人権、地方自治、平和を求める諸活動、高江などのヤンバルの森の破壊、大浦湾のジュゴンやサンゴなどを殺す環境破壊を許していいのかということになる。絶対にそんなことを許してはならない。諸悪の根源はここに 있습니다。

沖縄平和運動センター山城議長はこの「天皇メッセージ」を撤回して、県民に謝罪してくれと主張しています。

### 2. 1952年4月28日 沖縄県民にとっての「屈辱の日」

天皇メッセージに続いて、1952年4月28日、政権側は、日本は独立するけれども沖縄は切り離して米軍による沖縄植民地支配を公認という暴挙に出ました。沖縄の人びとは怒りました。74年後の今日、それは「屈辱の日」として怒りをあらわにしています。

復帰までの20年間は日本の憲法も米国の憲法で人権、地方自治がまったくない状態でした。この20年間は「無国籍」の状態におかれていました。嘉手納基地も普天間基地も広大な空・海域の訓練場などはこの時、米軍の銃剣とブルドーザーで占領され、今日までつづいています。この「無国籍」の状態に政府は何はともあれ、沖縄県民に謝罪しなければなりません。そのうえで、沖縄本島の20%の土地を占領している米軍基地を撤去することで米国政府と具体的に協議しなければなりません。県民に土地を返さなければなりません。

### 3. 復帰以後も居座る米軍

1972年5月沖縄は「本土に復帰」したものの、74年間も米軍が居座り続けているこの沖縄の現状を変えなければなりません。戦闘機、オスプレイ、輸送ヘリの墜落事故、女性へのレイプ殺人事件なども復帰後も何ら変わりありません。政府はその都度米軍側に抗議はするものの、根源の日米地位協定を県民の命を守る立場で抜本的な改定がなされなければなりません。それと同時に「日米合同委員会」を解散させ、国と国との対等な立場での諸問題を解決させなければなりません。